

子ども議会開催



最近、車の運転手の交通安全意識がとても低くなっているように思います。市としてどのような交通安全対策を実施していますか。

永瀬市民生活部長
市や警察署では、交通安全協会や交通安全母の会などの方々にご協力いただいて、交差点などの危険箇所街頭立哨や街頭キャンペーンで、ドライバーへ交通安全の呼びかけをしてきました。今後は、インターチェンジ開通により、市内の交通量増加が見込まれることから、「地域・家庭・職場」のあらゆるドライバーに向けて、交通安全各種団体を通じて安全運転の啓発に取り組みたいです。



僕の知り合いの人が「仕事と子育ての両立が難しい。」と、嘆いていました。桜川市では、子ども達が安全に遊んだり、親が安心して働けるために、どのような子育て支援に取り組んでいますか。

麻尾保健福祉部長
市の子育て支援の取り組みは、小学校の空き教室などを利用した、学童保育クラブや保育所での延長保育、一時的に保育を行う一時保育などを実施しております。また、子育て親子の交流や不安や悩み相談を行う「子育て支援センター」の設置に向け本年度関係機関と協議してまいります。



地域に元気を取り戻し、経済を活性化することが、桜川市の発展につながると思います。今後の計画について教えてください。

山中経済部長
本年、国は観光立国を目指して「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」を制定しました。このような状況の中で、地域の皆様と行政が一体となって、現在ある観光資源を利活用した魅力ある観光資源ルートの設定・新たなイベントを開催し、観光客などで交流人口を増加させることにより、市内の様々な産業を活性化させ、元気の桜川市をつくってまいりたいと考えております。



県西総合病院も建物が古くなっているのですが、耐震強度はどうなっているのですか。病院の建替えについてどう考えていますか。

中田市長
県西総合病院の建物は、現在の耐震設計基準には適合していないのが現状であります。市民の皆様の安心・安全の上から、今後、大いに検討すべきであると考えております。しかし、病院を建て替えたり、耐震構造化を実施するには多額の費用を要しますので、十分に精査し自治体病院としてのあり方を今後考えてまいります。



5日間以上の職場体験を行う「キャリア・スタート・ウィーク」を受け入れてくれる企業などが少ない。市としてバックアップをしてもらえないでしょうか。

古橋教育次長
「(仮称)キャリア・スタート・ウィーク連絡協議会」を立ち上げ、各中学校からの要望を取りまとめたり、生徒の皆さんを受け入れる企業や事業所などを開拓したりできればと考えます。また、学校と企業や事業所などとの相互のスムーズな連絡・調整や情報交換なども、この連絡協議会でできればと考えております。



桜川市内に高速道路のインターができましたが、それを利用して桜川市内を活性化させるために、どのようなことを考えていますか。

中田市長
このインターチェンジ開通により、周辺をはじめとした地域の土地利用の見直しを行い、優良企業を誘致し、地域経済の活性化を図ってまいりたいと考えております。また、インター脇の道路休憩施設「桜川ロードパーク」を有効活用し、桜川市の観光・歴史・文化などの情報発信や特産品をPRするための自由市場などを開催し、桜川市に賑わいをもたらしたいと考えております。



桜川市には、子どもたちが集まって遊べるような施設がありません。今後、このような子ども達が集まって遊べるような施設を作る計画がありますか。

山田副市長
新しい施設をつくることは、現在、慎重にならざるを得ない状況です。限られた収入の中で、必要なものを選択しながら支出をし、しかも、将来の財政状況も考えて計画的に実施していこうと考えています。そのような状況の中で、新しい施設の建設は、大きな借金も必要ですし、完成した後の維持管理費も多くかかるため、慎重な議論が必要です。



市として環境問題にどのような形で取り組んでいるのか、具体的な取り組みと今後の取組みについて教えてください。

永瀬市民生活部長
市では、昨年度作成した地球温暖化対策実行計画の中で、市庁舎内で平成18年度対比マイナス4%の実現に向け、平成20年度より二酸化炭素の排出ガス削減に取り組んでいます。今後は、市民の皆様に地球温暖化対策のご協力を呼びかけてまいります。現在、市内で問題になっている環境問題は、廃棄物の不法投棄などいろいろありますが、一つ一つ解決してまいりたいと思います。



「ただいまから子ども議会を始めます。」

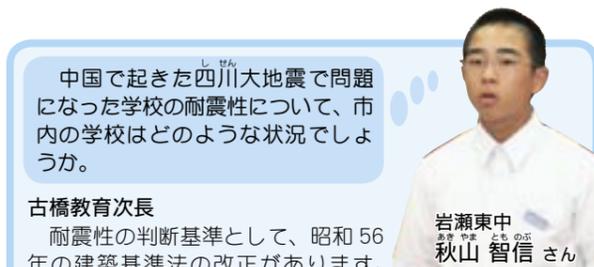
岩瀬西中 上野 雅敏さん

桜川市議会議場で、27人の市内中学3年生による「子ども議会」が開催されました。これは、社会体験学習の一環として、中学生に議会を体験してもらい市政の仕組みと議会活動を理解し、社会の一員としての自覚を深めてもらおうと、桜川市議会・岩瀬LC(ライオン)・常陸大和LC・真壁LC・真壁ライオネスクラブ共催で行われました。27人(内1人議長)の子ども議員からの質問と市執行部からの答弁を紹介いたします。省略して掲載いたします。紙面の都合上、内容を一部



「すぐやる課」をおけば、市民の市への信頼が得られると思います。桜川市では、今後「すぐやる」課を設置する考えがありますか。

飯島市長公室長
「すぐやる課」とは、市民の皆様の相談や要望に対し、出来ることはすぐやるという課で、電話一本で現場に駆けつけ、即対応出来るものは即実行するという、緊急対応が可能な応急措置であると思います。桜川市では、現在そのような対応は各課で対応しております。「日々改善、即実行」、これは今年度の市の目標であり、職員一同その実践に向けて日々努力しているところです。



中国で起きた四川大地震で問題になった学校の耐震性について、市内の学校はどのような状況でしょうか。

古橋教育次長
耐震性の判断基準として、昭和56年の建築基準法の改正があります。従って、それ以前に建てられた校舎などについては、今後、耐震診断を実施する必要があると考えられます。市では、既に耐震診断を実施している岩瀬西中学校および岩瀬東中学校を平成21年度から順次耐震補強工事を進め、その他の学校については建設年度などを考慮しながら、耐震診断を計画的に進めてまいりたいと考えております。



私たちが議員(生徒)のみなさんの質問に答えました。